別紙Ａ

四日市版コミュニティスクール報告書（令和３年度総括）

四日市市立　楠小学校

校　長　荻田　弘樹

１　コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

楠小学校は、四日市版コミュニティスクールの指定を受け８年目となりました。学校教育目標「人間性あふれる心を育み、明るくたくましく生きる子を育てる」を実現するため、学校をサポートいただいている保護者や地域の方々の活動を継続・発展させ、学校教育のさらなる充実を図りました。コロナ禍ではありましたが、感染対策を十分にとった上で、今年度も地域の方々が先生となる土曜日等教育活動「一日先生」を行い、学校・家庭・地域の連携をより深めていけるように、取り組みを進めました。

２　コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（１）教育活動の実践事例

地域の教育力を生かした特色ある教育活動として、例年１年生が行っている「昔の遊び交流会」や、４年生が行っている中学生の合唱や演奏の鑑賞などは、昨年度に続けて新型コロナウィルス感染症の影響により行うことができず、限られた学年でしか地域学習を行うことができませんでした。

３年生では、ホタル保存会の方を招いて本郷地区のホタルについて学習したり、自然保護団体の方を招いて吉崎海岸に産卵に来るウミガメの生態について学習したりしました。また、１２月にはコミュニティスクール委員の方々に向けて、６年生が人権学習で学んだ内容について短い劇にして発表したり、その様子をＤＶＤにまとめて楠地区人権協の方々に見ていただいたりするなどして、感想をいただくことができました。

５年生では、今年度も学習園での米作りに取り組みました。学習園で米作りをすることで、水の管理など毎日の世話の大切さに気づくことができました。また、すり鉢とソフトボールを使ったもみすりを実際にやってみることで、乾燥、脱穀、もみすり、精米など、白米にするまでの工程の大変さに気づくことができました。他の学年においても、各々、学習園での栽培活動に取り組み、体験を通して命の大切さを感じることができました。

また、６年生では、県教育委員会委託のアクションプラン事業を活用して、「反差別・人権研究所みえ」より講師を招いて、身の回りの人権課題について考え合う機会を持ち、人権フォーラムにおいては小・中で交流することができました。学んだことを交流する段階では、視覚的にもよくわかるように、拡大コピーやカラーコピーを活用するとともに、ろうか等にこれまで学習してきた内容を掲示する等の活動に取り組みました。他の学年においても、人権総合学習を柱とし、学年ごとに人権テーマを設定して研修を進めましたが、まん延防止重点措置の影響もあり、本来、中心としたかった「地域から学ぶ人権教育」という点においては拡がりに欠けたという反省が残りました。

（２）コミュニティスクール（運営協議会）の取り組みによる効果

例年、運営協議会開催の際には、授業参観を実施し、日常的な授業の様子を参観していただいているのですが、今年度は１回しか参観していただくことができませんでした。その代わり、プール等の学校が行っている新型コロナウィルス感染症拡大防止対策について説明をし、学校が日常的に行っている安心・安全な環境づくりについて理解していただくことができました。

コロナ禍ではありましたが、「一日先生」では、各スポーツ少年団や楠子連、消防団、地域の習字教室やモノづくりサークル等の様々な団体の協力を得て活動することができました。文化、スポーツ、体験、ものづくり等、２０種類の教室を開設し、その中から希望をとって２種類経験できるという活動です。運営協議会の方々には、保護者対象の教室も合めて活動全体をコーディネートしていただきました。

自由参加にも関わらず大勢の児童が参加し、大変好評でした。PTA の方々にも子どもの移動に際して安全を見守っていただき、大人対象の教室運営もお手伝いいただきました。

３　今後に向けて

運営協議会からの独自企画として始まった「一日先生」において、今年度は、中学生が指導補助員として参加しました。小学生のときに「一日先生」を体験した児童が中学生となり、今度は指導する立場で関われたことは、一小一中の地域としての強みとなったのではないかと考えます。しかし、学習に関しては、例年通りであれば行っている地域学習や保護者への公開が思うようにできず、「身近な人」という狭い範囲での聞き取りしかできませんでした。今後も、「新型コロナウィルス感染症対策」と「保護者・地域との連携」とを両立させながら、子どもたちの自尊感情の育成や地域を愛する心情の育成を図っていきたいと思います。